

高等教育のあり方検討について

【静岡市総合戦略(H27.10策定)】

2 「ひと」を育て、まちを活性化する

□中長期の取組

大学進学時に若者が流出している現状を受け、若者の学びの選択肢の拡大、地域社会や生産性向上を目指す企業が必要とする人材の育成、確保を図るための受け皿として、市立大学の設置可能性も含めて高等教育のあり方を検討する。

<これまでの取組>



高校へのアンケート

- 高校生：
商学・経済学・経営学、語学、文学・史学・哲学、教育、医学
- 教員・校長：
医学、工学、情報、国際教養系（進学校を中心に理工系への要望が強い）
- 学びたい分野や職業・就職を考えて進学先を選ぶ生徒が多い



経済界ヒアリング

- バランス型の産業構成
- 求められているスキル：
コミュニケーション能力、教養・幅広い知識、主体性、挑戦力など
- 採用計画に対する充足率は十分ではなく、必要な人材を確保できていない状況もある



静岡市の現状把握

- 市内で少ない学系：
教養系・情報・工学・医歯学 など
- 市内高校卒業生の約4割は市外の大学・短期大学へ進学
- 理工系の不足が特に大きい

【モデルケース研究】

検討の参考となる先進事例大学の視察を実施

【情報収集】

専門職大学制度(H29創設)などの情報収集

国の議論

- 地方創生の観点からの地域の大学の役割・存在意義
- 地方大学振興(都心大学新設抑制)
- 人材供給源として大学の必要性
- 教育費負担軽減の観点から身近な地域に大学があること
- リカレント教育(学び直し)・CCRC
- 専門職大学制度の新設

静岡市の現状・課題・ニーズに相応しい「高等教育のあり方の検討」の必要性

平成30年度

「静岡市高等教育のあり方検討会」

検討内容(案)：リカレント教育、アクティブ・ラーニング、専門職大学、高大接続 など